



# JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT 2024

E2：ジャパンサーチがつなぐ学術資源とデジタルアーカイブ

## 東京大学附属図書館における ジャパンサーチ連携・活用の取組

---

東京大学附属図書館（総合図書館）  
情報サービス課資料整備チーム

中村 美里

# 本日の発表



**01.はじめに**

**02.東京大学デジタルアーカイブポータルとジャパンサーチとの連携**

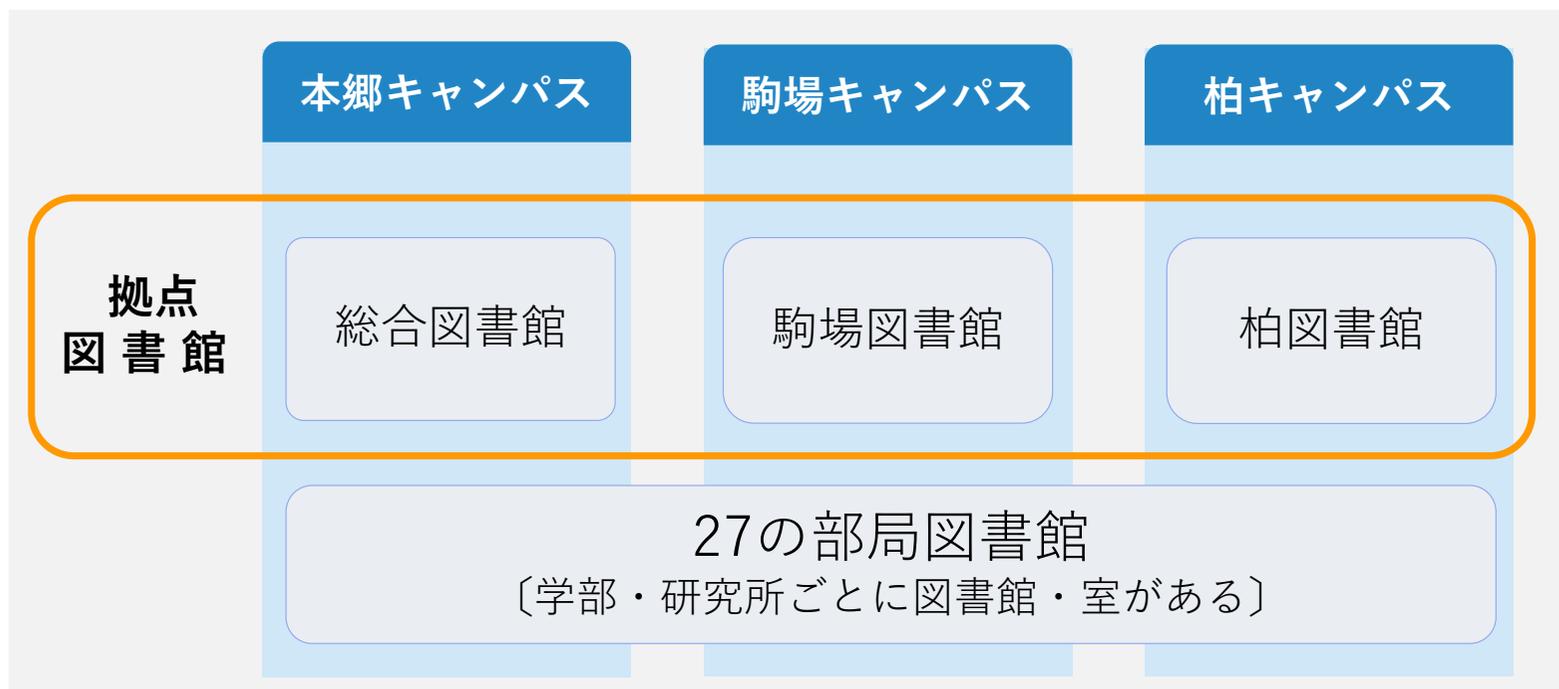
**03.ジャパンサーチ「ギャラリー」を活用した展示会の試み**



# 01. はじめに

## ■ 東京大学附属図書館の概要

- 3つの拠点図書館と27の部局図書館 = **合計30の図書館**で構成
- 一つのシステムとして東京大学の学習・教育・研究活動をサポート
- 各図書館の利用方法、サービス内容は図書館ごとに異なる



総合図書館



駒場図書館



柏図書館

# 01. はじめに

## ■ 自己紹介：現在の主な担当業務

- 総合図書館で所蔵する貴重図書、年代の古い保存書庫資料などの管理・提供
- 貴重図書等のデジタル化およびデジタルアーカイブでの公開作業  
(学術資産アーカイブ化推進室員を兼任)
- 特別利用申請への対応 (画像掲載、博物館等への出陳など)
- 障害のある学内構成員への資料電子化サービス (バリアフリー支援)
- 雑誌資料の製本 / 劣化資料の修繕 (簡易なもののみ) / 新規受入図書の装備と配架 / 図書資産実査 (図書の棚卸作業) / 総合図書館カウンター業務全般 . . . etc

このあたりの業務を担当しているので

- **東京大学デジタルアーカイブポータルに関わること**
  - **(比較的古い年代の資料を扱う) 展示に関わること**
- などを日々行っています

## 02.東京大学デジタルアーカイブポータルとジャパンサーチとの連携

### ■ 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業とは

附属図書館、総合研究博物館、文書館、情報基盤センターが中心となり、東京大学が所有する学術資産のデジタル化を支援し、その公開とデータ活用を促進する取組。2017年度開始。附属図書館内に「学術資産アーカイブ化推進室」が設置されている。

### ■ UTokyo Compass 2.0での言及

「UTokyo Compass」とは、東京大学が2021年9月に公表した「東京大学ならではの創造的な挑戦の航路」を指ししめす憲章。2024年5月に増補版にあたる「UTokyo Compass 2.0」が公開される。

「UTokyo Compass 2.0」具体的な行動計画 > Perspective 1 知をきわめる > 1-2 【多様な学術の振興】 > 計画1 研究基盤の強化、計画3 人文・社会科学と自然科学の協働の振興

計画1：学術資産のアーカイブ機能を強化

計画3：文理協働に資する学術資産の収集・把握・保全、目録化、デジタルアーカイブの作成とウェブ上での公開、展示等を進め、文理協働研究の拠点とする

### ■ アーカイブズ構築事業の主な取り組み

1. 学術資産のデジタル化やデジタルアーカイブ構築等に関する学内公募を行い、委員会での審査を行った上で予算を配分
2. デジタル化された学術資産の発見可能性を高め、東京大学の魅力を発信するため、画像の公開支援およびポータルシステムの構築・運用を実施
3. 更なる学術資産のデジタル化と公開データの活用を促進するため、関連セミナーの実施、各部局へのサポート、参考情報の積極的な発信などを実施

## 02-1. 東京大学デジタルアーカイブポータルとは

### ■ システムリニューアルについて

2017年～2024年5月29日

2024年5月29日～

リンク集

#### 東京大学学術資産等アーカイブズリンク集

各部局・研究室で公開しているデジタルコンテンツのリンク集（一覧リスト形式／個々の資料の横断検索はできない）

共用サーバ

#### 東京大学学術資産等共用サーバ

画像の独自公開が難しい部局等のため、画像公開支援を行うための画像公開サーバ（IIIF準拠）

ポータル

#### 東京大学学術資産等共用アーカイブズポータル

各部局・研究室が運用するデジタルアーカイブやデータベース等のメタデータと、共用サーバで公開する画像のメタデータを集積し、横断検索を提供

3つのシステムを統合



東京大学  
デジタルアーカイブポータル (\*1)

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

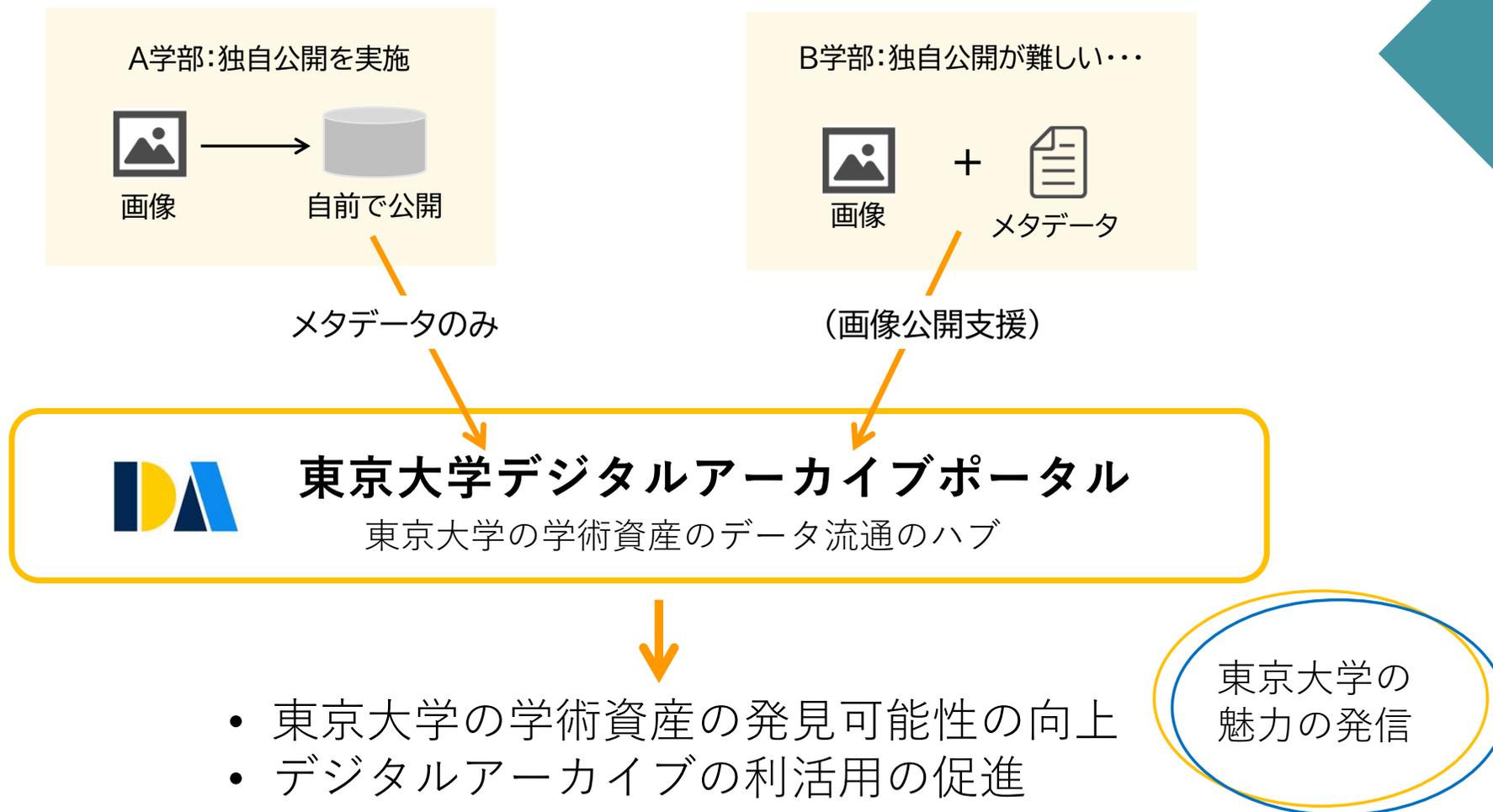
東大 アーカイブポータル



※以降、この資料では  
「東大アーカイブポータル」と書きます

## 02-1. 東京大学デジタルアーカイブポータルとは

### ■ 東大アーカイブポータルの概要



## 02-2. 東京大学デジタルアーカイブポータルとの連携

### ■ 東大アーカイブポータルの外部連携：NDLとのデータ連携



東京大学  
デジタルアーカイブ  
ポータル



2019年11月～

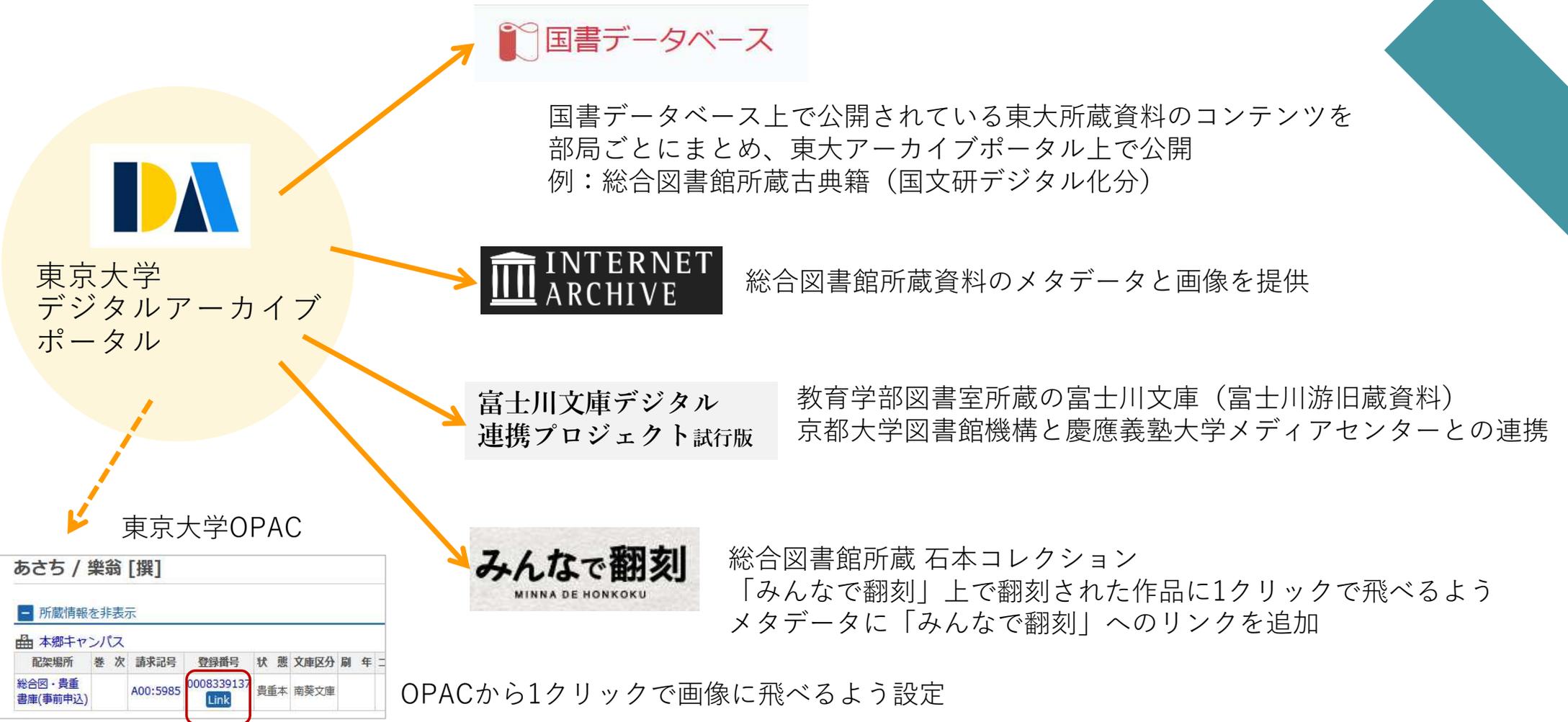


2019年12月～

- csvまたはOAI-PMHでメタデータを提供
- ただし東大アーカイブポータルに搭載されている全件ではなく、メタデータ・サムネイルの利用条件が「PDM」「CC0」「CC BY」「CC BY-SA」を指定しているアイテムのみ

## 02-2. 東京大学デジタルアーカイブポータル連携

### ■ 東大アーカイブポータルの外部連携：NDL以外の機関とのデータ連携



## 02-2. 東京大学デジタルアーカイブポータルとの連携

### ■ ジャパンサーチとの連携について

**Noooo!!**

- 東大アーカイブポータルで公開すれば、みんな使ってくれる・・・？
- 東大アーカイブポータルを利用しない人にも情報が届くよう、様々なシステムと連携することが大事では？

東大アーカイブポータルで公開されていることを知らなくても、東大アーカイブポータルのデータに辿り着ける、いつの間にか利用できている、という出会いが増えてほしい

- 特に、ジャパンサーチのスケールメリット、知名度、安定感（安心感？）は大きい
- 「デジタルアーカイブを日常にする」を目指すジャパンサーチに乗らない手はない

## 02-2. 東京大学デジタルアーカイブポータルとの連携

### ■ ジャパンサーチとの連携に関連して思うこと

- ジャパンサーチではメタデータとサムネイル/プレビューを、オープンなライセンスで流通させている
- 辿り着いた先（各機関の画像等の公開サイト）でも、利用条件をきちんと明示しておくことが大事
- 更なる活用促進のため・・・
- 画像やテキスト等の利用条件は、なるべく自由利用可で
  - 画像公開は、できればIIIF準拠で

**一方で、担当者としては利用実態を少しでも把握したい！**

**→ 利用報告を気軽に自然と行う習慣が広がれば...**

更に（東大担当者からジャパンサーチに期待すること）

- 海外のデジタルアーカイブとの連携窓口になってほしい
- ジャパンサーチがデータの一大集積場となり、これまでにない規模のデータ活用が行われる場になってほしい

## 03. ジャパンサーチ「ギャラリー」を活用した展示会の試み

### ■ 附属図書館の展示会について

- 東京大学附属図書館では（記録に残っている情報によると）1929(昭和4)年から展示会を定期的を開催
- 場所は主に総合図書館内
- 大規模な特別展示、常設のミニ展示など展示規模は様々
- 2015年度～2021年度まで、総合図書館の大規模改修工事のため展示会が開催できなかった
- 一方、この改修工事により総合図書館内に「展示スペース」と「オープンエリア」が新たに誕生



展示スペース



オープンエリア

## 03-1. ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

### ■ 森鷗外旧蔵書（鷗外文庫）展の開催 2022年10月

- 附属図書館としては8年ぶりの特別展示会開催
- 2022年は森鷗外の生誕160年・没後100年というメモリアルイヤー
- 森鷗外の旧蔵書である「鷗外文庫」を擁する東京大学附属図書館で、森鷗外の特別展示会を開催しないわけにはいかない という空気感
- 特別展示会にあわせて森鷗外自筆の新出原稿を発表という計画も進む

なるべく見映えの良いサイトを作りたい  
しかし予算は無い・・・  
時間もあまり無い・・・

（ジャパンサーチ「ギャラリー」を使うようになった経緯の詳細はこちらで公開）

そうだ、ギャラリーがあった！



ジャパンサーチ連携機関向けギャラリー作成ワークショップ  
2022年12月12日（月）  
「テエベス百門の断面図 歿後100年記念森鷗外旧蔵書展」での  
ギャラリー構築について  
～または私たちは如何にして心配するのを止めて  
ギャラリーを利用するようになったか～

<https://jpsearch.go.jp/event/20221212>

## 03-1. ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

### ■ ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

- 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業に関する「学内広報」の連載コラム「デジタル万華鏡」を、既にギャラリー上で公開していた
- ギャラリーで電子展示サイトのテスト版を作り、展示監修の先生や館長に事前照会し、正式に「ギャラリー」使用を了解してもらう
- 国立国会図書館の「ジャパンサーチ」が提供しているサービスであること、洗練された画面デザイン、そして何ととっても「無料」という点が大きかった
- 担当者としては、複数名での共同編集が可能であること、公開・非公開のコントロールができることがメリットとして大きかった



東京大学学内広報コラム  
デジタル万華鏡

## 03-1. ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

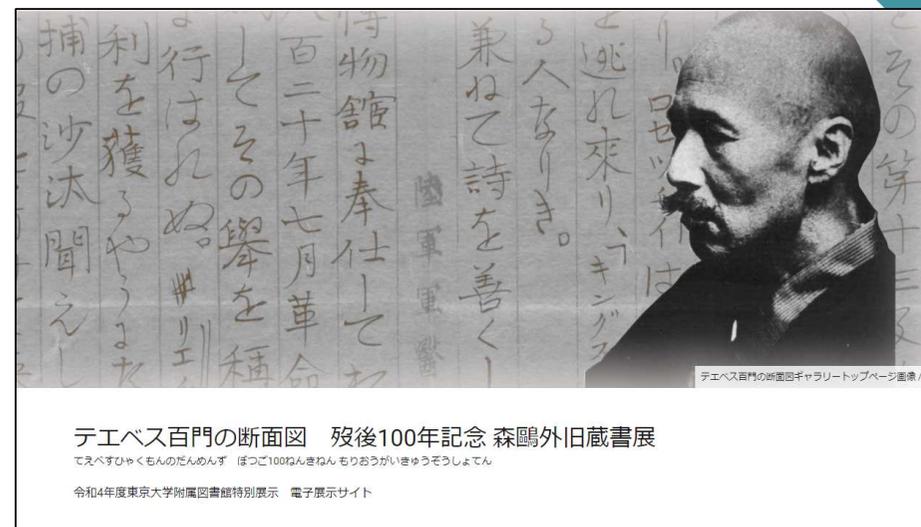
### ■ ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

- 電子展示サイト構築は5名で担当（なお全員、ギャラリー構築は初経験）
- マニュアルは一通り読んだものの、最初は見よう見まねで作業（既に公開されていた他機関のギャラリーがとても参考になった）
- 展示資料を全て掲載した展示会図録（冊子）を別途作成しており、「この図録にある情報を全て電子展示上でも公開する」を基本方針とする
- 電子展示サイトの内容を一から検討する必要はなかったが、100点を超える資料紹介コンテンツを作っていくことに・・・



2022年10月12日

予定どおり（何とか無事に）公開

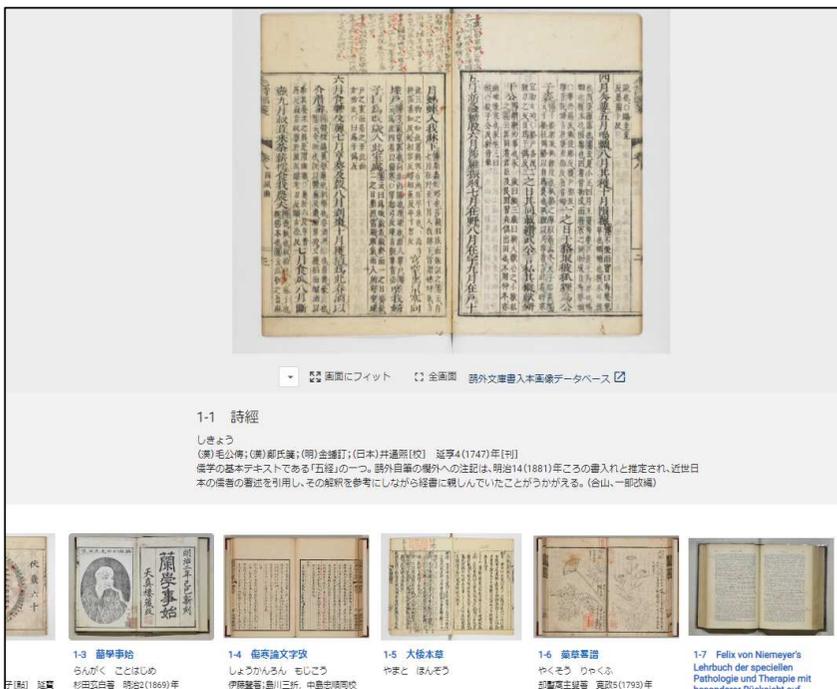


公開月は約1,700アクセスほどあった  
展示会終了後も一定のアクセス数がある

# 03-1. ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

## ■ ギャラリー構築の工夫点

### 【強弱をつけた画像の配置】



1-1 詩經  
しきょう  
〔東〕毛公傳；〔美〕鄭氏箋；〔明〕金鍾訂；〔日〕井邊高〔校〕 延享4(1747)年〔刊〕  
漢字の基本テキストである「五經」の一つ。語外目録の題外への注記は、明治14(1881)年ころの墨入れと推定され、近世日本の儒者の著述を引用し、その船辭を参考にしながら経書に親しんでいたことがうかがえる。(倉山、一部改題)

1-3 蘭学事始  
らんがく ことばはじめ  
杉田玄白著 明治21(1849)年

1-4 蘭学論文字表  
しやうかんぶん もじこく  
伊藤塾舎(島川三折、中島忠清編校)

1-5 大板本草  
やまと ほんそう

1-6 蘭学書語  
やくせう わかくご  
伊藤塾舎主編等 寛政5(1793)年

1-7 Felix von Nitschjer's  
Lehrbuch der speciellen  
Pathologie und Therapie mit  
besonderer Rücksicht auf

### 【「地図から見る鷗外文庫」の作成】

地図から見る鷗外文庫

鷗外文庫書入本画像データベースで公開している資料を、地図から辿ることができます。東京、小倉、ドイツなど様々なエリアへご案内します。



Leaflet | 国土地理院ウェブサイト

## 03-1. ギャラリーを活用した電子展示サイトの構築

### 【関連資料の配置】

(リアル展示資料)



#### 3-2 字記捷覧 2巻

じきしょうらん

(釋)周觀 [註] 元禄12(1699)年[刊]

(唐釋)智廣撰『悉曇字記』の注釈本。梵語研究の最古の専著『悉曇字記』は五十音図の成立や字音仮名遣いに大きな影響を与え、その注釈や改編として本書のような日本独

(関連資料・電子展示のみ)



#### (国立国会図書館所蔵) 悉曇字記

3-2 字記捷覧 2巻 関連資料

国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている資料です。

\*この資料は電子展示のみです。会場での展示はありません

- 展示ケースのサイズの都合上、展示できなかった資料やパネルに書ききれなかった情報などを電子展示サイトでは搭載

- 関連作品も積極的に紹介

- ジャパンサーチ上で検索をすると思いがけない資料がヒットすることが多々あった

## 03-2. 更なるギャラリーの活用例

### 2023年度東京大学大学附属図書館特別展示会「図書館に眠る震災の記憶展」



- 2023年度特別展示会の電子展示サイト
- 鷗外展示の経験を活かし、2023年もギャラリーを活用した電子展示サイトを構築
- 約25点の資料を紹介
- 3名で担当

### 東京大学デジタルアーカイブポータルリニューアル記念ギャラリー

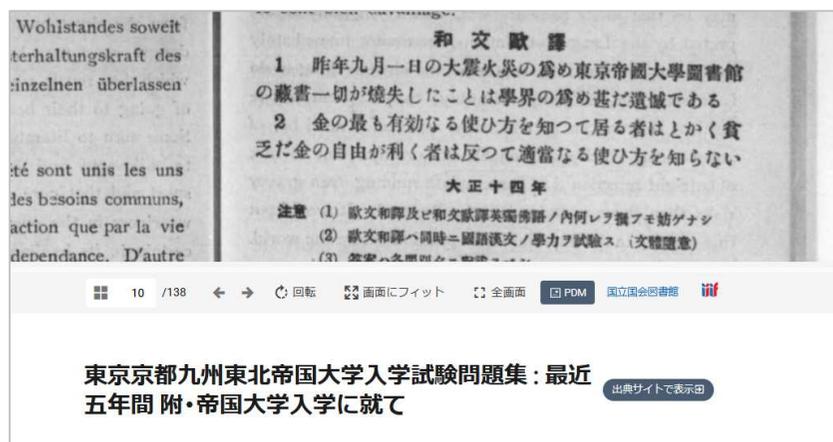


- 2024年5月29日に東大アーカイブポータルをリニューアル公開。その広報のためオープンエリアで東大アーカイブポータル搭載コンテンツの一部を紹介する展示を実施中
- 展示にあわせて6月5日からギャラリーも公開
- 約10点の資料を紹介（1名で作業）

## 03-3. ギャラリーを構築してみても

### ■ ギャラリーを構築してみても

- 資料を魅力的に発信できる場／サービスが無料で提供されていることの有り難さ
- ジャパンサーチ上のコンテンツをスムーズに検索・取り込みできる環境
  - 「こんな資料もあったのか！」という発見、それをすぐに電子展示に組み込める便利さ・面白さ → スペース（場所・紙面）の制約がない電子展示ならではのメリット／内容に広がりを持たせることができる
- 担当者にとっては、キュレーション力のトレーニング場



### 例) 2023年度の関東大震災展示の際に紹介した資料

東京京都九州東北帝国大学入学試験問題集：最近五年間  
附・帝国大学入学に就て

#### 和文欧訳

1 昨年九月一日の大震火災の爲め東京帝国大学図書館の蔵書一切が焼失したことは學界の爲め甚だ遺憾である

### 03-3. ギャラリーを構築してみても

#### ■ ギャラリーがもたらす利用者拡大への期待

##### ■ ギャラリーという、新しいコンテンツの見せ方

- 東京大学単体での情報発信とは異なり、他機関の様々なコンテンツと一緒に提示できる面白さ

##### ■ ギャラリー構築過程での様々な資料の発見

- 逆を考えると・・・ 東大アーカイブポータルコンテンツも、どこかのギャラリー構築時に「こんな資料もあったのか！」と思われ、利用されている可能性が。
- 担当者の発見→ギャラリーへの搭載→ギャラリー閲覧者の数だけ、そのコンテンツを知って利用してくれる可能性がうまれる？！



多様な見せ方で、利用者層の広がり・変化が起こっていくことを期待



ジャパンスター様  
今後もお世話になります

画像：耳鳥齋『絵本水や空』（国立国会図書館所蔵を改変）

[info:ndljp/pid/2537568](https://ndljp.info:ndljp/pid/2537568)

## 参考情報

---

- 東京大学附属図書館  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja>
- 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top>
- UTokyo Compass 2.0  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>
- 東京大学デジタルアーカイブポータル  
<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
- 国書データベースと東大アーカイブポータルの連携例  
<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/collection/kokubunken>
- Internet Archive  
<https://archive.org/details/utokyo-general>
- 富士川文庫デジタル連携プロジェクト試行版  
[https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/digital\\_fujikawa/](https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/digital_fujikawa/)
- みんなで翻刻  
<https://www.honkoku.org/>

## 参考情報

---

- 「テエベス百門の断面図 歿後100年記念森鷗外旧蔵書展」でのギャラリー構築について  
～または私たちは如何にして心配するのを止めてギャラリーを利用するようになったか～  
(ジャパンサーチ連携機関向けギャラリー作成ワークショップ)  
<https://jpsearch.go.jp/event/20221212>
- 2022年度附属図書館特別展示会 テエベス百門の断面図 歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展  
<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-ogai2022>
- 東京大学学内広報コラム デジタル万華鏡  
<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-digitalkaleidoscope>
- 2023年度附属図書館特別展示会 「図書館に眠る震災の記憶展」  
<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-shinsai2023>
- 東京大学デジタルアーカイブポータルリニューアル記念ギャラリー  
<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-newDAP>